

平成26年5月15日

平成26年度病虫害発生予報第2号

長崎県病虫害防除所長

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミズゾウムシ	並 並	並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	少 並 やや少	少 並 やや少
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 - 並 並 -	並 並 並 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシマルカイガラムシ (防除情報第3号) ナシヒメシンクイ	少 少 並 並	やや少 並 並 並
なし	黒星病 アブラムシ類	やや多 やや多	やや多 やや多
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並	並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ カンザワハダニ	並 並 並 やや多 並 並 並	並 並 並 やや多 並 並 並

【発生予報】

本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(38筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(38筆)の結果、食害発生圃場率は44.7%(35.5%)、食害株率は8.9%(3.6%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は58.0%(30.8%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(31筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率14.4%、発病株率2.0%)。

2. 炭疽病(*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(31筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 雨除けビニルが設置可能な圃場は必ず設置する。

イ 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(31筆)の結果、寄生株率は0.2%(2.3%)、発生圃場率は6.1%(22.5%)であった。

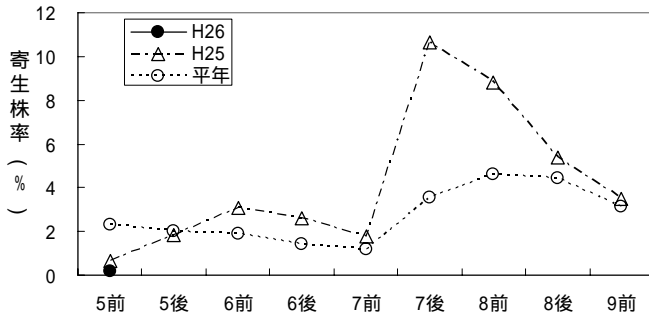


図 ハダニ類 寄生株率の推移

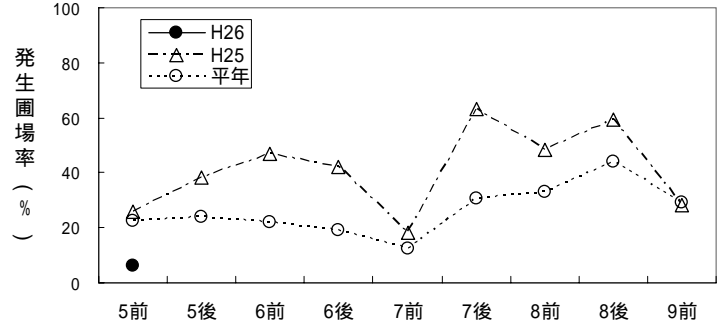


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は2.0頭(過去7カ年平均6.0頭)、発生圃場率は66.7%(過去7カ年平均75.6%)であった。

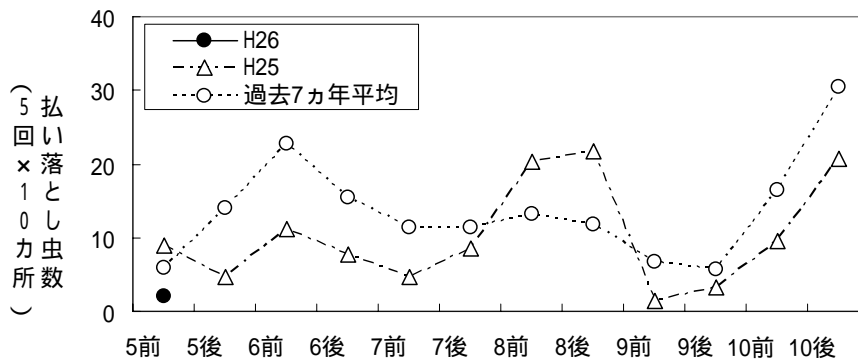


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(2.0%)であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は5.6%(0.0%)であった。

3. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1ヶ月の降水量は、平年並の見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は1.1%(1.3%)、発生圃場率は27.8%(21.6%)であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

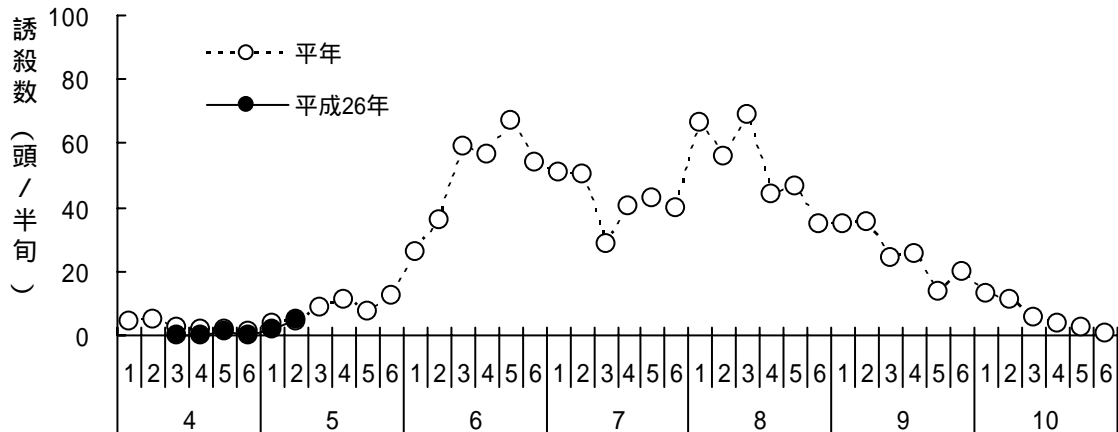


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ) (月・半月)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2～3世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第2世代	6/3	6/7	6/11	6/5	6/16	6/9
" (前年)	6/6	6/8	6/14	6/7	6/18	-
第3世代	6/26	6/30	7/5	6/27	7/9	7/1
" (前年)	6/28	6/29	7/7	6/29	7/11	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温度により算出した。なお、積算には2014年5月13日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

イ 表の予測発生ピーク日 5 日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

ウ 発生が多い園では 1 果当たりの寄生虫数が 0.1 頭に達する前に防除を行う。

エ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成 25 年 1 1 月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査の結果、ヤノネカイガラムシの寄生果率は 0.1% (0.4%) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

下表に示した初発生予測に基づき、使用する薬剤に応じて適期に防除する。

表 ヤノネカイガラムシの初発生予測日および防除適期

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	巖原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/5	5/8	5/7	5/6	5/7	5/6	5/9	5/8	5/6	5/9	5/10	5/8
前年予測日	5/7	5/10	5/8	5/7	5/10	5/8	5/11	5/11	5/7	5/11	5/12	-
IGR剤防除適期	5/30	6/2	6/1	5/31	6/1	5/31	6/3	6/2	5/31	6/3	6/4	6/2
有機リン剤防除適期	6/14	6/17	6/16	6/15	6/16	6/15	6/18	6/17	6/15	6/18	6/19	6/17
標高 (m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1: 初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(2014年1月1日~4月30日)を用いて「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」により算出した。

注2: IGR 剤と有機リン剤の防除適期は、それぞれ初発日の25日後および40 日後とした。

注3: 同一地区内でも、山間部では防除適期は遅れる場合があるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 5 月上旬の巡回調査(10 筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率 1.0%、発生圃場率 42.5%)。

イ 向こう 1 ヶ月の降水量は、平年並の見込みである。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5 月上旬の巡回調査(10 筆)の結果、春葉での発生を認めなかった(発病枝葉率 1.8%、発生圃場率 38.8%)。

イ 向こう 1 ヶ月の降水量は、平年並の見込みである。

3. ナシマルカイガラムシ

平成 26 年 5 月 15 日付け病害虫発生予察防除情報第 3 号による。

4. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

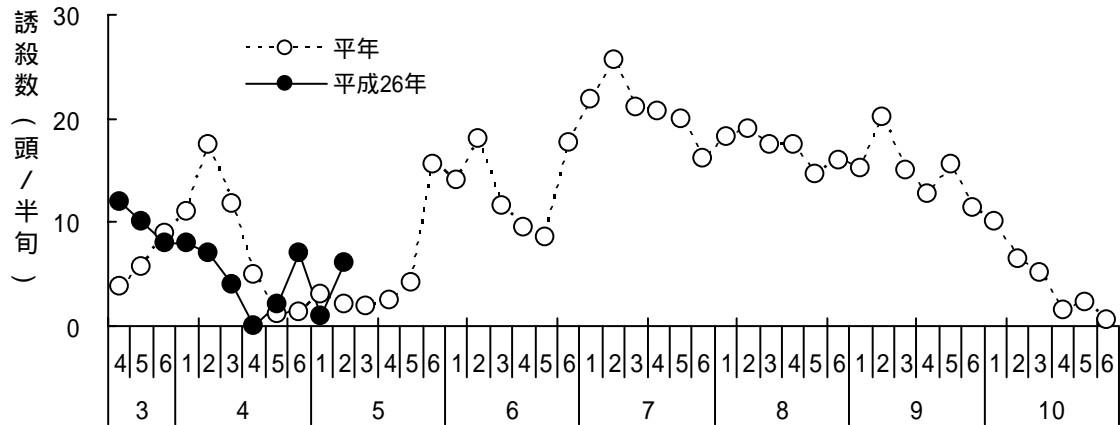


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ) (月・半月)

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.8%(0.4%)、発生圃場率は25.0%(28.1%)、発病果率は4.6%(0.2%)、発生圃場率は30.0%(17.7%)で、幼果での発生が多い園が一部見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア スピードスプレーで散布する場合は全列走行とし、圃の周囲等で薬液が到達しにくい場所は手散布を併用する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は1.3%(0.9%)、発生圃場率は50.0%(21.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(8.3%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害花房を認めない)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ調査(諫早市小船越町、多良見町、南島原市有家町及び西海市西彼町)による誘殺数は、平年並で推移している(図)。

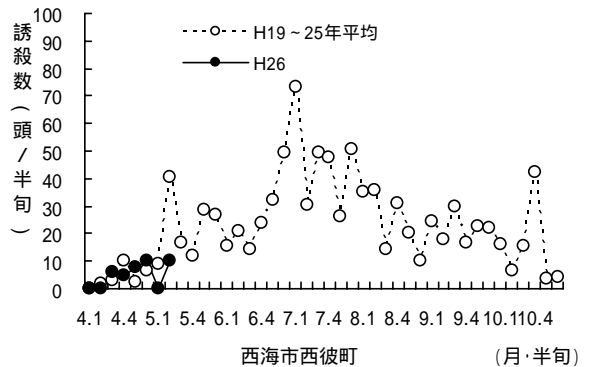
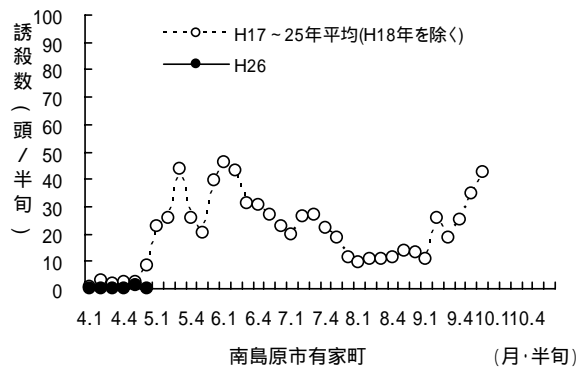
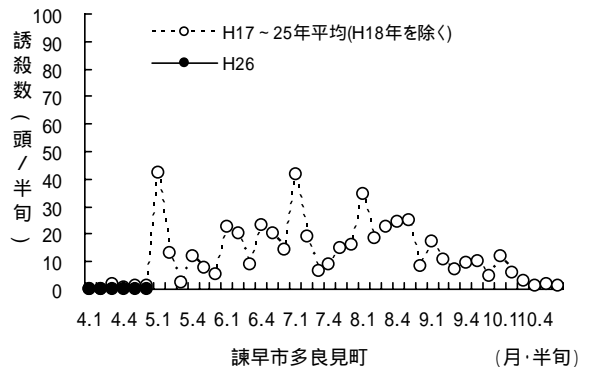
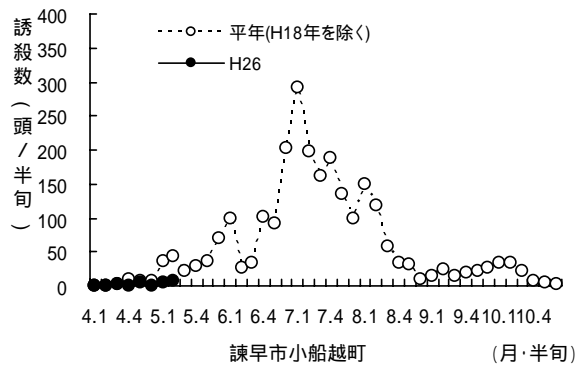


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

イ 県予察圃場(かんきつ、びわ)における調査では、5月2半旬までに飛来は認められない。

ウ 防除員等の報告によると、5月2半旬までに一部のかんきつ園でツヤアオカメムシの飛来が認められている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来時期や飛来数は園により異なるので、こまめに見まわって早期発見に努め、飛来を認めたら早急に防除する。

イ ハウス栽培では、開口部を防虫網(4mm目以下)で被覆し侵入を防ぐ。既に防虫網を設置済みのハウスでは破損箇所がないか点検し、破損箇所は補修する。

ウ なし等では袋かけ作業が遅れないようにする。

エ 収穫期が近い樹種については、使用薬剤の収穫前使用日数に留意して適正に使用する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉数0.0枚、発生圃場率0.5%)。

2. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率2.5%)。

イ フェロモントラップによる誘殺時期(農林技術開発センター茶業研究室調査)は4月6半旬~5月1半旬にピークが見られ平年よりもやや早く、誘殺量はほぼ平年並で推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

一番茶後に他害虫と併せて防除する。

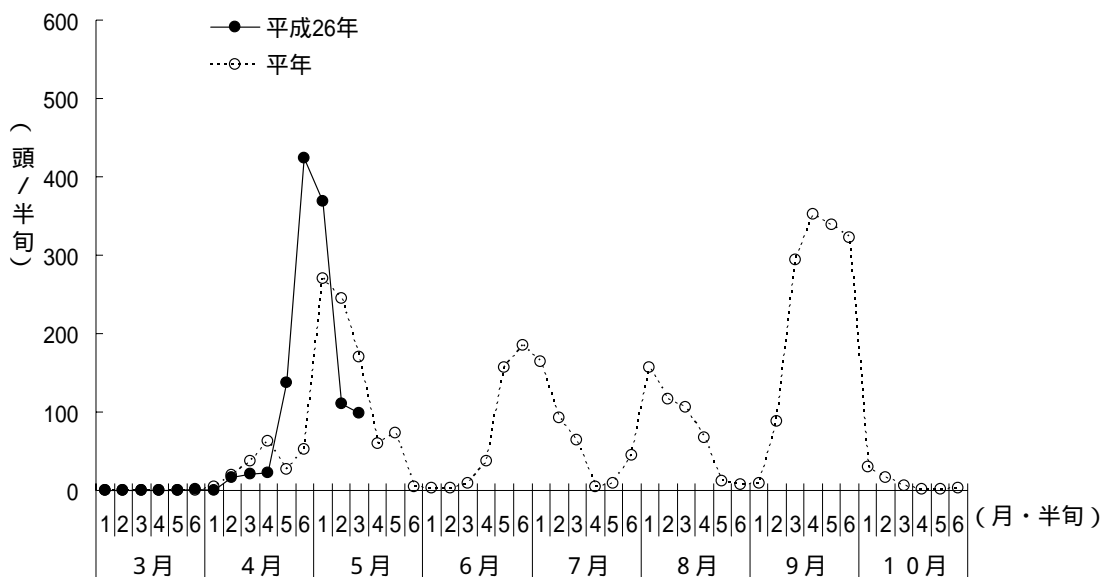


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況 (東彼杵：フェロモントラップ)

3. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.2枚、発生圃場率4.9%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は4月3半旬にピークが見られ、ほぼ平年並で推移している(図)。

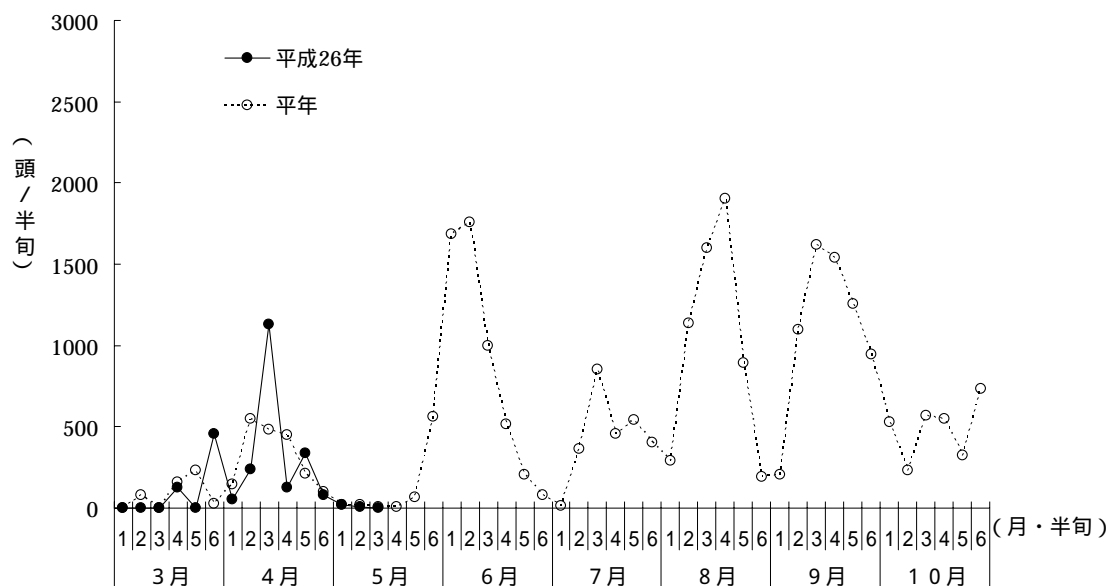


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.2頭(1.4頭)、発生圃場率は60.0%(34.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は7.1頭(8.2頭)、発生圃場率は80.0%(56.1%)であった。

6. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は6.8%(6.3%)、発生圃場率は45.0%(39.1%)であった。

7. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.3%(1.4%)、発生圃場率は10.0%(22.3%)であった。

